

平成29年第2回（定例）高砂市教育委員会 会議録（要旨）

日時

平成29年1月26日午後1時30分

場所

高砂市役所南庁舎4階研修室

出席者

衣笠教育長、藤井委員、山名委員、吉田委員、神尾委員

出席事務局職員

大西教育部長、木村教育推進室長、瀧野学校教育室長、
都筑教育推進室教育総務課長、駒井学校教育室学校教育課長、
阿部教育推進室生涯学習課長、
福原福祉部子育て支援室長、藤田福祉部子育て支援室主幹、
川西福祉部子育て支援室副課長

本日の会議に付した事件

協議事項

- 1 小中一貫教育について
- 2 公立認定こども園の3歳児（1号認定子ども）の受付状況について
- 3 認定こども園の移行スケジュール（案）について
- 4 高砂市教育委員会事業後援承認一覧について

その他

- 1 2月行事予定について

議 事 協議事項 2 公立認定こども園の3歳児（1号認定子ども）の受付状況について

- 事務局 (協議事項2について説明)
- 教育長 これについてご質問とかご意見ありますか。
- 委員A 民間のほう 서비스가いいということで、民間のほうに流れる傾向があるか。
- 事務局 民間は特色がいろいろあり、それを好む保護者もいらっしゃるかと思いますが、実際に、今現在、各認定こども園で就学前の2歳、3歳を対象とした子育て支援事業を利用される方が大半だということです。その園になれているので、公立のこども園を希望したということも聞いています。園の先生方からも2歳児のときの子育て支援事業の成長段階ですごくその成長を見られて、3歳児の教育にもつながることができたということも聞いていますので、そういうこども園のよさをわかっていたら入園だと思っています。
- 委員B こども園化することによって、私立の特色ある教育方針と公立との差を埋めるために、保育料が高くなった分をフィードバックするための予算、施策で何かあらわれてきてますか。
- 事務局 29年度については、全園ではありませんが、老朽化した遊具の購入を考えています。それと、給食備品で、実際には公立も民間も子育て支援室にいる栄養士の指導のもとでやっていますが、特に公立では食育に力を入れていて、それを充実するような給食備品を随時購入する計画を立てて、予算を計上しています。教材費で新たには、予算を計上していない状況です。
- 教育長 その他、いかがですか。
- 事務局 28年度、認定こども園化に当たり、一時預かりという新しいサービスの提供もしています。また、教育委員からの予算要望で、4歳児クラスに関しては職員の正規化はなっていないという現状ですが、人件費に関して臨時職員から任期付職員という形で条件面をよくして、人材を集めて質の向上に努めているところです。
- 委員C 予算を増やしてサービスとフィードバックとか、園の特色化というのはほんとに大事なポイントだと思います。特色を目当てにして子どもたちが入って夢を持つのは必要なことで大切なことなんですけど、職員もかわっていく中で、独自の特色を持つということはほんとに難しい。計画性を持っていかないと具現化できないので、計画的に進めていただきたいと思います。
- 教育長 保育料をアップした分、それに見合った保育ができれば、市民の方の目にも見える形でご理解いただける。長期的なビジョンも含めて考えていただけたらという意見がありました。

議 事 協議事項3 認定こども園の移行スケジュール（案）について

- 事務局 (協議事項3について説明)
- 教育長 このスケジュール表について、何かご意見、ご質問ありますか。
- 委員A 曾根、米田が同時になるが、これは大丈夫なのか。
- 事務局 同時に進めるに当たって、一番困難なのが財政的なことです。こういった形ですか、設計も何もできてない状態ですので、財政的にどうしても無理であればおくれることもあると思いますが、今のところは32年にどちらも開園したいということで、今のところは準備を進めています。
- 委員A もし財政上等々でずらすといった場合、どちらを先行させるのか。
- 事務局 それぞれ地区の課題が全く違います。どの課題によってどちらを先にするかということが決まってくるかと思います。補助金を使えるかどうかといったこともあわせて検討を進めているので、スケジュールが変わることがあれば、教育委員会も報告はさせていただきます。
- 委員A あくまでもこの場所でやるということですね。
- 事務局 違う場所に新しく建てるという考えは、今のところ案の中では出ていません。この敷地で、どちらか新しいほうはそのまま維持できるならして、古いほうを解体するとか、そういった案を今のところ考えています。駐車場とかの整備ももちろんしていかないといけませんので、この土地の中でいかに有効にできるか、あとは現場から、子どもの動きがよく見えるような状態にしてほしいと、要望が出ていますので、保育になるべく支障がない形で進めていきたいと思っています。
- 委員B 検討委員会をするときには大体のこの敷地の中でどんな建て方をするかという青写真的なものはあるのか。地図だけ見ても、段差の問題とか、あるいは、校庭をどうするかいうのを示していただいたほうが考えやすい。
- 事務局 おっしゃるとおりで、現状の園舎を見ただけでどうなるかという想像が全くつかないかと思います。
- 今、望ましい幼児教育推進委員会のほうでもいろんな案が出てきていて、まだ確定ができてない状態です。ある程度の見通しがついたら、教育委員会のほうで、ご意見を新たに聞かせていただきたいと考えています。
- 教育長 設計の話が出ましたけど、とにかくこれを進めるに当たっての現場の意見も聞いてということでした。現場以外の、例えば地域の方とか、いろんな意見を聞いた上での移行に向けてのスケジュールを考えてもらいたいということだと思います。
- あとは、何かご意見ございますか。
- 曾根、米田については29年が空白となっていますけど、この空白の部分で梅

井の認定こども園に向けての取り組みで多くの方の意見を聞いて進めてきた形で、同じように29年度にそういったご意見を聞くということでしたね。

○事務局 曾根・米田についても、来年ぐらいから地元、保護者両方の説明をしていかなければならないと考えています。

○教育長 地域の方の意識化が不十分なままに進めることがないようにお願いします。他にご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

議 事 協議事項1 小中一貫教育について

○事務局 (協議事項1について説明)

○教育長 説明は終わりました。何かご質問ありますか。

○委員B 成果を具体的に教えてください。

○事務局 それぞれ校内アンケートから成果を見える形でまとめています。学ぶ力とか自主性、自分を大切にできる心などに関係する項目を平成26年12月と平成27年7月のアンケート結果を比べる中で、学校の授業が楽しいと感じる生徒のパーセントの推移、「授業の内容はよくわかる」という部分などで生徒の意識に変化が見られることを成果として考えています。

「自分にはいいところがある」とか「自分はやったらできる」という、自分を大切にできる心という部分においても、良好な結果が出ていると考えます。それとは別に、6年生を対象に中学校に向けての生活を尋ねているアンケートで、不安を示すパーセントに多少変動はありますが、大きな流れとして減少傾向があり、成果として考えています。

また、「学校のきまりを守る」という部分でも、保護者、地域の方の声として、中学生が小学生と一貫教育で交流する機会が増えて、しっかりとしないという部分、それから、小学生が中学生を見て憧れを持って見るような姿が増えたのではということです。

○委員A 校長が別々にいて、一貫教育に近い取り組みをしても、それは小中連携学校で、一貫教育にはならないということが出てますよね。だから、あくまでも市内全域で一貫をやるんだとしたら、校長一人にするのか、あるいは6・3制をやめて5・4制でいくのか、4・3・2制でいくのか、統一していかないと、ほかの学校から転入しようと思っても、ついていけなくなる。市外からの受け入れにしても、一貫一貫と言いながら、実質は連携じゃないのか。

○事務局 今、高砂市が目指しているのは、義務教育学校でも小中一貫校でもなくて、そういう制度に乗らない教育を行っていく学校として小中一貫教育に取り組んでいこうとしています。ですので、あくまで6・3制というのは、制度上は小学校6年制、中学校3年制という制度を保ったまま、教育課程も現行の

教育課程を保ったままという取り組みになります。ただ、小中一貫教育として文部科学省の中で定義されているような目指す子ども像を小学校・中学校両方が共有し、小学校・中学校9年間の一貫した指導のもと教育課程が行われるという定義での小中一貫教育を行っていきたいと考えております。

○委員A それはたしか中教審の答申の中で、小中一貫型小学校・中学校という位置づけをしていますね。実質は小中一貫型の連携学校を目指しているんですか。

○事務局 整理をしますと、これまでは学校独自で、小学校は小学校6年間、中学校は中学校で3年間、同じ校区にありながらも別々に教育課程を編成して教育をやっている形です。その中で、高砂市ではこれまで同じ中学校区で何とか連携して効果的な教育を進めていこうと、小中連携教育を進めてきましたが、高砂中学校区ではさらにもう一步進めて、一貫教育をしていこうと取り組んでいます。それをさらにもう一步進めると小中一貫教育の学校自体を制度校に乗せてしまおうということがあります。

義務教育学校という形で、制度に乗せた制度校にすれば、校長を1人にして教育課程を編成して進めることができるということです。

○教育長 このたび国が制度化した。高砂市はそれに乗った形での小中一貫までは行っていないという話がありましたよね。その制度に乗せた場合と乗せない場合の違いというのはどこで見きわめるんですか。

○事務局 制度校にするかどうかというのは、小中一貫教育の取り組みがどれだけ充実しているかというところで、あとは、設置者の判断になってきます。今、全国的にも制度校に乗せたところが出てきていますが、それは長年の期間を持って小中一貫教育の取り組みをしてきたところが制度校に乗せた形で次の段階へ移行をして実施しています。

○委員B 今、高砂小学校で行っているのはどういう教育カリキュラム、どういう形の相互乗り入れを実際やっているのか、教えていただきたい。曖昧なこういうアンケートだけで、小中一貫の成果だと言われてもわかりにくい。

○教育長 高砂小中でやってることで、連携と違う一番大きなところは、小学校・中学校が目指す子ども像を共有して9年間、高砂の場合は幼稚園も含めて11年間のスパンで子どもを見ていきたいと思います。小学校の先生方は、6年生で卒業して、終わりじゃなくて、中学校までも見ていきたいと思います、かかわっていきたいと思いますというところが違うのと、自分の学校だけで目標を決めるんじゃないで、校区全体で考えていきたいと思いますというところが、連携と一貫の一番の違いだと捉えています。高砂小中の場合には3年間の取組があります。

○委員C アンケートについて、数字的に見ると望ましい方向に進んでいるなということはよくわかるので、それなりに小中一貫の取り組みが功を奏しているのかなという感じはします。

- 委員D 中1ギャップアンケートで、小学生が中学校に行くに当たって不安に思っていることとか、心配に感じていることをとっているが、私は、行ってみたらどうだったというのを知りたいと思う。中学校に入ってみて、教科に対して違和感を感じずに自然に勉強できたとか、それがいい結果じゃないとうまく乗り越えられてないと思う。乗り越えた先で人間関係が、中学校になったから難しくなったか、ならなかったかとかを知りたいと思います。それが成果かなと思うんですね。
- それと、中学校になって学校内の先生との関係も小学校とすごい変わりますが、教科担任制になったことに違和感を感じていないとか、その子が今中学1年になってどう感じてるかということを知りたいと思いますので、また機会があれば、お願いします。
- 委員B 数が増えてきているけど、来られた方々は小中一貫に具体的にどういうものを希望して来られてるか、わかりますか。
- 事務局 小中一貫を希望する方の区域外就学に関しては、書類だけではなく、実際、学校のほうに行って、校長先生と十分話をさせていただいて、学校長の理念とか学校の考え方、また保護者の考え方を必ず校長先生と話をさせていただいた中で、それでよければ許可しています。
- 委員D 以前に耳にしたところによると、授業の前倒しができるようになるということがあるんです。それで、きょういただいた資料で、指導内容の入れかえ移行というところで、中学校段階の学年間の指導内容の前倒し、移行が書いてありますね。これについて、連携が小中学校の場合は設置者の判断ではできないと括弧して書いてあるが、これは連携型はできないけど、一貫校になればできるということですか。
- 事務局 教育課程の入れかえができますのは義務教育学校の一貫校と、それから併設型小学校中学校の一貫校、この2つはできます。
- 設置者が違うという場合に、それをあえて一貫校としてやりましょうというときは連携型。その場合については、設置者が違うことによって、教科書を採択しているものが違ってきたりすると、教育課程の入れかえなどは子どもに支障が生じるので、入れかえはできないと認識しています。
- 委員C 高砂小学校へ訪問したときに、小中一貫の話題も出ました。
- 教師のモチベーションの持続に課題があるということと、高中、高小以外は全部複数小学校があるから、小学校同士が連携しておかないと、学習規律とかも違ってきますね。そうになると、今度もう少し幅が広がってきたら、高砂市内の10の小学校全部が同じような1つの目標を持って高砂市が目指す子ども像に広がっていかないかなと思うので、まずは各中学校区での小中の連携というのをやらないといけない。
- 委員D 同じ小学校から違う中学校に分かれていく地域がありますよね。そこもどの

ように将来考えていけばいいのか。中学校区で統一していくとなると、小学校一緒に中学校が分かれる子どもたちというのはどうなっていくのか。

○事務局 具体的に挙げると、伊保小学校が、3分の1が荒井中学校で3分の2が竜山中学校へと進む中学校が分かれています。基本は竜山中学校と伊保小学校の連携を考えておりますが、荒井中学校に進む子たちに不平等感がないように、荒井中学校からも伊保小学校へ行って中学校の交流とか部活動体験とかいう形で連携をとってもらったり、荒井中学校区の推進会議に伊保小学校の先生に入ってもらって、情報を共有しておくとか、できるだけ不利益にならないように共通の取り組みをやっていきたいと考えています。

○教育長 地域の中のつながりという面も、小中一貫することと相反するような形の課題がありますよね。例えば、小中一貫することで小から中1へ進学するときに中1ギャップはなくなってきつつあるが、中学校へ行くワクワク感というのがちょっと減ってるというのもあるし、いろんな課題があると思うんです。またこの一貫教育についてはご意見を聞く機会があると思いますのでご意見をいただけたらと思います。

議 事 協議事項4 高砂市教育委員会事業後援承認一覧について

○事務局 (協議事項4について説明)

○教育長 何かご意見ありますか。

なければ、承認します。

議 事 その他 2月行事予定について

○事務局 (その他について説明)

○教育長 他にありませんか。

なければ、これで閉会いたします。

平成29年1月26日 午後4時50分 教育長会議の閉会を宣告
